

奨学金の返還に対する支援

問 人口減少対策の一つとして取り組むべき施策だと考えるが、検討状況を伺いたい。

答 人口流出の歯どめ策や将来の地域産業の担い手確保策として他都市では取り組みが始まっているが、長崎市での導入に向けては、現時点で効果の検証や財源の問題などの整理ができていない状況である。

人口減少は長崎市にとって非常に大きな課題の一つであるが、社会減と自然減の両面からどのような施策が効果的かをしっかりと組み立てながら取り組んでいく必要があると考えている。

その中で、奨学金の返還に対する支援も含め、効率のいい施策について真剣に議論しながら積極的に取り組みたい。

(仮称)茂木バイパスの早期着手

問 平成29年1月に地元住民が「(仮称)茂木バイパス建設推進期成会」を設立したが、期成会からの要望に対する長崎市の見解を伺いたい。

答 (仮称)茂木バイパスは茂木地区と九州横断自動車道を結ぶ長崎県の構想路線で、茂木地区の地域振興や災害時の安全安心に寄与する道路であり、地域住民の期待は十分承知しているが、構想路線として検討された当時から社会経済情勢が変化しており、さらに

現道の国道324号の交通量も少ないため、長期的課題と考える。

まずは、幅員が狭く交通環境の改善が必要な現道の道路改良について県へ早期完成を働きかけていきたい。

また、期成会において今後、(仮称)茂木バイパスの整備促進に取り組んでいくとのことであるため、市としてもその取り組みに協力していきたい。

公明党

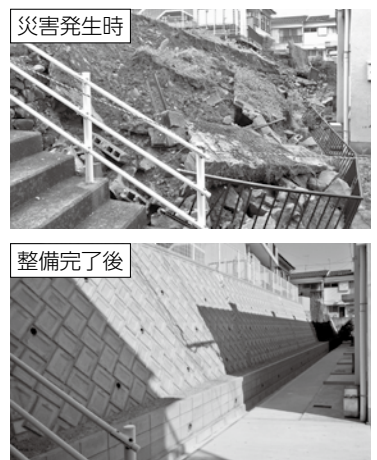
住宅敷地の崖崩れ対策

問 長崎市では崩壊した崖の復旧工事に対する補助を行っているが、特殊な地形などによる崖崩れの増加が懸念される中、予防保全のための制度が必要だと考えるが、見解を伺いたい。

答 平成27年度から宅地のがけ災害対策費補助金を創設し、崖崩れの復旧を支援し、市民の安全性向上に努めてきたが、斜面地における石積みの擁壁などの老朽化や大雨の降る回数もふえ、相談は年々増加し、崖崩れの復旧にも多額の費用を要している。

崖崩れの予防処置は重要だと考えているため、住宅金融支援機構などによる予防工事への融資制度の普及に引き続き努めるとともに、現行の補助制度の対象拡大ができないか検討したい。また、崩壊の危険性がある崖につい

て事前の情報収集に努めたい。



シルバー人材センターの活用

問 少子高齢化と人口減少が進む中、就労意欲のある高齢者が活躍できる社会を実現するため、長崎市とシルバー人材センターとがさらに連携・協力しながら事業を行うことが必要と考えるが見解を伺いたい。

答 現在、シルバー人材センターでは代表的な業務として樹木の剪定や除草、公園の管理業務を行っており、平成28年度の契約件数は6427件、契約金額は約3億7651万円、就業延べ人員は1万8658人となっている。

他都市ではふるさと納税の返礼として、空き家の管理やお墓の清掃などを行っている事例等があるため、これらも参考にしながら、新たな業務の導入可能性を関係部局と協議・検討し、これまで以上にシルバー人材センターと連携・協力し、高齢者の就業機会の拡大と生きがいづくりの支援に努めたい。

障がい者スポーツの取り組み

問 ことしで19回目となる市民体育・レクリエーション祭には障がい者の方が参加できる競技が一つもないが、今後実施する考えはないのか。

答 市民体育・レクリエーション祭は、「市民一人ひとりが、スポーツ及びレクリエーションに親しみ、体力づくりや健康づくりに努め、明るく豊かな市民生活の向上に寄与する」という趣旨のもと毎年10月に開催し、昨年度は競技の部36競技、レクリエーションの部14種目に、8348人の方が参加している。



この大会において障害者スポーツを実施することは、障害者スポーツの普及・振興に大変意義のあるものと考えている。今後、競技種目の一つとして取り入れることができなにか各競技団体及び障害者スポーツ団体と協議していきたい。

創生自民

北朝鮮の核の脅威と平和宣言

問 北朝鮮の核開発は全世界にとっても切迫した脅威となっている。ことし